

## 養殖アカモクの収穫

2月2日より、養殖アカモクの収穫が宮津市養老地先で始まりました。今期もアカモクの順調に生育し、収穫量は5年連続で10トンを上回る見込みです。収穫作業は3月初旬頃まで継続されます。

2月下旬には、来年度のアカモク種苗生産に向けて、成熟したアカモク母藻から種(幼胚)を採取する作業を実施し、約400万個(約5万本の種苗が生産可能)の幼胚を確保しました。これらを、種苗生産を開始する次年度5月頃まで当センターの冷蔵室で大切に保管します。

養殖された海藻類は二酸化酸素の吸収・貯留源となることから、アカモクの養殖は脱炭素手法としても大きな注目を集めています。アカモクの養殖が食用海藻の生産のみならず、府内の脱炭素の取り組みの一例となるよう、引き続き安定した種苗供給と養殖振興に取り組んでいきます。



水面にたなびくアカモク(収穫期直前)



アカモクの幼胚(倍率20倍)